

国語教育 相談室

小 学 校



国語教育相談室
No. 62

特 集

これからの漢字指導を考える — その魅力と可能性 —

座談会 阿辻哲次・棚橋尚子・卯月啓子

おはなし定期便 帰り道の旅 小森香折



わたしとことば

師の跡を求めず、
師の求めたところを求めよ 山本東次郎

教師力講座 「教材研究」が授業の基盤

書写の時間を考えよう

光村図書

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.118 定価126円(税込)

2008(平成20)年1月11日発行

発行人=常田 寛

発行所=光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話03-3493-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所=村田印刷工業株式会社

デザイン=秋葉 幹司

座談会撮影=平井 研二(代官山スタジオ)

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

わたしとことば

師の跡を求めず、師の求めたところを求めよ…………… 山本東次郎



特集

これからの漢字指導を考える — その魅力と可能性 —

座談会

阿辻哲次・棚橋尚子・卯月啓子

実践提案 ① 漢字で遊び 漢字を学ぶ…………… 赤木雅宣

実践提案 ② 「漢字博士」で四つの力を身につける…………… 新しい指導を考える会

実践提案 ③ 漢字を「文中で適切に使える力」の育成を目ざす…………… 新しい指導を考える会

実践提案 ④ 楽しくてもっと学習したくなる漢字指導の工夫…………… 新しい指導を考える会

教師力講座 ②

「教材研究」が授業の基盤…………… 安田恭子
吉永幸司

書写の時間を考えよう

書写の時間を楽しく ⑥

平仮名の秘密を探ろう…………… 中込繁樹

書写ってこんなに面白い! ⑤

筆順は、そんなに大切なもの?…………… 宮澤正明

おはなし定期便

帰り道の旅…………… 小森香折

辛口コラム 一寸苦言

授業改善に立ち向かう…………… 一徹国語人

師の跡を求めず、 師の求めたところを求めよ

大蔵流狂言方 山本 東次郎

弘法大師のこの言葉に私が巡り逢ったのは、父の死後、二年ほど経った頃だったと思います。父は亡くなった時、六十五歳、私はまだ二十七歳でした。すでに大蔵流の現行曲・二百曲、能の間狂言・百五十曲あまり、なかには四十年、五十年先に演じるものまで、すべての曲の稽古を済ませてくれていて、そのことで慌てることはありませんでした。

しかし、習ったことを正確に覚え、再現するだけでは到底、真の狂言とは言えません。何より大きな悩みだったのは、年齢はもとより私は体格・体質・体力、すべての点で「まるで重戦車のような」と評された父とあまりにも異なっていたことです。舞台に立った時の巨大な存在感、どうしたらあのような重厚で迫力ある芸ができるようになるのか、責任をもつて父祖伝来の芸を継承していかなければならない立場なのに、自分には逆立ちしてもできっこないと絶望的な気持ちになる苦しい日々でした。

「親父さんの真似をしたって駄目だよ。人間は二人一人違うんだから」、そうおっしゃってください方もおいでになりました。そしてまた、師の真似をしているうちは決して師を超えられないこともわかっていきます。でもいったいどうすれば良いのか、そんなふうに思い悩む毎日のなかで巡り逢ったのがこの言葉だったのです。

人間には皆、生まれ持った資質があり個性があり、どのような厳格な稽古を受けても、誰もが同じに演じるようにはなりません。しかし、狂言は六百年の間、変質することなく生き続けてきました。それは代々の狂言の演者たちが遥か彼方に同じ理想を掲げ、それを追い求めてきたからこそ。狂言を育て、磨き上げてきた時代時代の狂言の演者を貫いて通った究極の一点を私も求めているきたい。

私も父の亡くなった年齢をいつの間にか超えてしまいました。しかし今も変わらず、「師の求めたところを求めて」、狂言を演じ続ける毎日です。



山本 東次郎

大蔵流狂言方。四世山本東次郎則寿。
1937年東京生まれ。
1992年度芸術選奨文部大臣賞、2006年度
日本芸術院賞受賞。1998年紫綬褒章受章。
重要無形文化財総合指定、日本能楽会会員。



座談会

これからの漢字指導を考える — その魅力と可能性 —

うづき けいこ
卯月 啓子
(柏市立高柳小学校教諭)



東京都生まれ。言葉や漢字、文章のおもしろさを教える指導を実践・提案・指導する。NHK教育テレビ「ことばあ!」番組委員。93年大村はま奨励賞受賞。02年NHK教育テレビ「教育フォーカス」で漢字の授業放映。著書に、『楽しい国語シリーズ1 漢字と遊ぶ 漢字で遊ぶ』『子ども漢字百景』(東洋館出版社)ほか多数。

たなはし ひさこ
棚橋 尚子
(奈良教育大学教授)



愛知県生まれ。光村図書小学校国語教科書編集委員。専門は国語教育。論文に「現代社会における漢字表現」(朝倉漢字講座4「漢字と社会」)、「漢字習得におけるルビの有効性の解明」(奈良教育大学「国文—研究と教育」30号)などがある。

あつじ てつじ
阿辻 哲次
(京都大学大学院教授)



大阪府生まれ。光村図書小学校・中学校国語教科書編集委員。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会国語専門部会委員。文化審議会国語部会委員。専門は漢字を中心とした中国の文字文化史。著書に『図説漢字の歴史』(大修館書店)、『漢字のはなし』(岩波書店)ほか多数。

漢字好き嫌い その分岐点

棚橋 今日は、漢字教育の問題点や、これからの展望について考えていきたいと思っています。ところで、ここにいる三人は、みんな漢字が好きだと思いますが、子どもたちの実態を見てみると、好きな子は本当にマニアのように好きで、嫌いな子を見るのも嫌、というように、好き嫌いが極端に分かれるような気がします。なぜこんなにはっきりと分かれてしまうのでしょうか。

阿辻 漢字の好き嫌いって、車やコンピュータの好き嫌いと同じではないかと思うんです。どちらも、上手に使いこなせるとこんなに便利なものはないですよ。ただ、使いこなすためには、ある程度の訓練や努力をしなければならぬ。その途中で挫折すれば嫌いになってしまふし、上手に使いこなせると大好きになる。漢字も、上手に使いこなせると表現の効率がよくなったり、あるいは誤解が避けられたり、コミュニケーションツールとしてはほんとうに便利です。小学生でそこまでの感覚をもつことは難しいでしょうが、文章が引き締まるとか、漢字を使うことのメリットは少なからず感じているのではないかと思います。でも、覚えて使いこなすにはたいへ

んな努力を要求される。そこが好き嫌いの分岐点になっているような気がします。

卯月 わたしはこれまで、一年生から六年生までまんべんなく何度も受け持ってきましたが、漢字をいちばん歓迎するのは、まだ漢字を習う前。一年生の最初のころですね。漢字を習うと大人っぽくなったと思うようなのです。平仮名を全部覚えていない子でも「早く漢字を教えて。」というくらい。でも、漢字を教えたあとに勝手に漢字嫌いになる。すごく早いです。

棚橋 習いたがっていたのに、いざ勉強し始めると嫌いになってしまふんですね。

卯月 そうなんです。まず、使い分けができない。例えば、「木」という漢字を教えると、それが「氣をつける」の「き」でも「きりん」の「き」でも、みんな使えると思っているのです。教師は、漢字には一つひとつみんな意味があるんだよ、ということを教えますね。でも、使い分けなければならないということになる、わからなくなってしまうよ

うです。それから、たとえ知っていても、「上の学年の漢字や習っていない漢字は使ってはいけない。」と教師に言われたりすると嫌になってしまふ。

阿辻 でも、学年別漢字配当表って教科書レベルの話でしょう。例えば、図書館で児童文学を手についたらまだ習っていない漢字が出てきた、というのは大いにありうる話ですよ。それでも子どもたちは楽しんで読んでいます。「使ってはいけない。」と言われると、それが枷(かぎ)になって、かえってマイナスになることもあるんじゃないですか？

卯月 そう思います。教師がこだわるのは、習わないうちに漢字を覚えると、正しい書き順が覚えられないし字形が整わない、ということなんです。でも、子どもたちって、生活の中でたくさん漢字に出会っていて、知っているんですよね。知っていれば使いたいですよ。神経質に咎(とが)め立てすることなしに、もう少しおおらかに対応できたらいいのですが……。それを制限してしまっている教師側の問題も、少なからずあると思います。

子どもたちは、生活の中でたくさん漢字に出会っている。



語彙としての漢字指導

棚橋 二〇〇三年と二〇〇四年に、漢字テストを作っているふたつの団体が小学校学習漢字一〇〇六字を対象に行った調査で、興味深い結果があります。ひとつの団体のテストではできていなかった漢字が、もうひとつの団体ではできている、という場合が結構あるのです。例えば、「海」は、一方のテストでは、二年生の書けない漢字ワーストワンくらいに挙がっていました。もう一方ではよく書けていたのですが。

卯月 ああ、それ、よくわかります。語彙が違うんですね、きっと。教科書で習っていない使い方が出たのではないですか？

棚橋 そうです。よくできていたほうは「海岸」、できなかったほうは「海外」という単語を書かせていたんですね。よく漢字のテストでは単漢字を取り上げて、この文字が書ける、書けない、という言い方をしますが、そうじゃない。語彙の問題が大きいんですよ。

語彙として使えるようにならなければ、漢字をいくらたくさん覚えても、生きた知識にはならない。

ね。語彙的な指導の観点が欠けているんじゃないかと思います。

阿辻 子どもたちは、単漢字ではなくて、漢字語彙として覚えているということですか？

卯月 いいえ、単漢字でも覚えさせるんですが、そうすると単漢字としてしか覚えられないわけです。ちよつと違う用例を出したりすると、「ええつ、そんなの習ってない！」となる。語彙の問題は大きいですね。

阿辻 なるほど。海岸の「海」は、海外の「海」と同じ、というふうには、なかなか結びつかないわけですね。

棚橋 先生方は、時間数の少ない中で、なかなか漢字にかける時間が取れないというのも実情でしょうから、その学年では簡単な語彙や教科書に出てくる使い方だけでいいので、上の学年でもう一回おさらいするような形で、ほかの語彙を学習する機会があるようにように思います。

もに頭に入っています。今は使いませんけど、矢鱈（やたら）とか、語彙まで含めて覚えていきますね。

卯月 昔は新聞も総ルビでしたから、小さい子どもでも、意味がわからなくても読めた。そんな中で、言葉遣いや語彙を身につけていったということはありましたね。

阿辻 日本語を読み、書き、話すということを総体的に高めていけば、漢字力も必然的に高まっていくんじゃないかという気がします。

棚橋 国語の中の漢字学習とはいったい何であるのかを、もう少し厳密に考えなければいけないのじゃないですね。

漢字と遊ぶ 漢字で遊ぶ

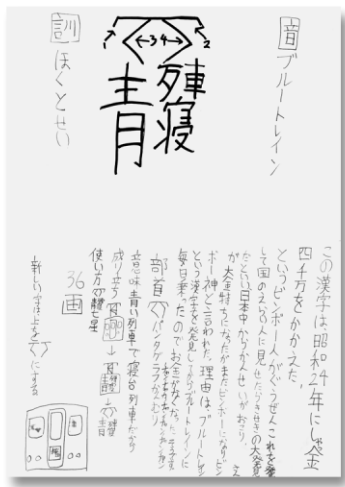
卯月 わたしは、とにかく漢字は楽しくなくちゃ、と思っていて、いろいろな楽しい漢字学習を実践しています。例えば、『漢字発見物語』といって、自分たちで新しい漢字を作るという学習があります。子どもたちは、自分で漢字辞典をほとんど使ってやっていますね。



卯月 漢字はよくできても、作文を書くとき平仮名ばかりという子どももいます。漢字テストの漢字と、文章に入れ込んでいく漢字は別物だと思っているんです。知っている漢字を、文章の中で使うことができない。

棚橋 生きた知識になっていない、ということですね。

卯月 語彙として使うところまでいかなないと、漢字をいくらたくさん覚えても、生きた知識にはならないわけです。つまり、書けていないところにつながるのかな、



【漢字発見物語】

作った漢字の音読み・訓読みはもちろん、成り立ちや用法なども文章で書いている。

棚橋 ほんとうに子どもたちは発想豊かですね。画数がすごく多くて覚えるのがたいへんそうです（笑）。

阿辻 わたしもテレビの番組でやったことがあります。女偏に車で「女性専用車」（笑）。アナウンサーは、「重」の下に「心」と書いて、「ストレス」という漢字を作っていました。

卯月 なるほど！ 子どもたちは、こんなふうにパーツを組み合わせてアイデア漢字を作るのが大好きです。漢字の構造もわかるし、辞典もどんどん使っし、何より「漢字っておもしろいね。」「漢字の秘密がわかった！」と言ってくれます。

子どもたちがもつとのびのびと感ぜられるような漢字指導をしてほしい。

棚橋 国語以外の教科書に出てくる語彙としての漢字は、学習指導要領の学年別漢字配当表の縛りをあまり受けないまま、ルビつきで出しているところが多いようです。以前六年生の教科書で調査をしたことがあるのですが、特に理科は専門用語が多くて、平仮名にしてしまつとかえつてわかりにくいからなのか、ルビが多かつたですね。逆に家庭科な

阿辻 なるほど。そこが漢字のおもしろいところですよ。漢字がわかるとなんとなく想像がつくという。

棚橋 国語以外の教科書に出てくる語彙としての漢字は、学習指導要領の学年別漢字配当表の縛りをあまり受けないまま、ルビつきで出しているところが多いようです。以前六年生の教科書で調査をしたことがあるのですが、特に理科は専門用語が多くて、平仮名にしてしまつとかえつてわかりにくいからなのか、ルビが多かつたですね。逆に家庭科な

棚橋 子どもたちも、「知っているけどわざと使わない」ということがよくあるみたいで

かつた場合、「数」の音読み・訓読み、書き順を教えてしまつとか、理科の時間に「水溶液」と出てきたとき、「溶」は中学校学習漢字ですが教えてしまつ。「溶」には「溶ける」という意味があるんだよ、と言うと、かえつて「水溶液」という言葉への理解が深まつたりもします。体育の鉄棒では、鉄の棒だよ、と言つて地面に「棒」を書いたり。そういうことを年中地道に積み重ねているんです。

どでは、「洗たく機」のように交ぜ書きが多かつたです。日常用語が多くて、子どもたちにも把握しやすいからだと思います。

卯月 社会科なんでもつとすごいですよ。

歴史上の人物なんて、教科書には「聖徳太子」と書いてあつても、テストでは平仮名で「しやうとくたいし」とか。日本の地名も、新潟の「潟」や栃木の「栃」はどこで教えるんだ、ということになるわけです。でも、例えば漢字テストではあまりできない子が、「那覇」と書けたりする。それは、実家が那覇にあつて、毎年行っているからなんですね。そういう、子どもたちが生活の中でよく目にしていて知っている漢字を「生活漢字」と言っているのですが、教育漢字とは離反していますね。現場でも、取り上げる術を知らないというか、わざと切っている部分がある。



【漢字の間違い探し】

阿辻 万葉仮名と同じ考え方ですね。漢字は、こんなふうに遊んだり楽しんだりすることができるといいですね。平仮名や片仮名ではそれはできない。もう少し、「漢字と遊ぶ」「漢字で遊ぶ」という発想をもつと、頭から「嫌い」ということは少なくなるかもしれないですね。

卯月 早いですね、先生。これをやると、必然的に自分の間違いやすい漢字をたくさん書くことになるので、覚えちゃうんですね。こちらは、『漢字の暗号』ということで、漢字の音だけを使って文章を書かせたものです。いつも言っている「漢字の意味」をあえて取り払つて、と言つたら、漢字が苦手な子どもでも大喜び。「先生、『が』はどう書くの?」「画用紙の『画』もあるし、我流の『我』や発芽の『芽』もあるよ。」なんて、復習しながら書きました。漢字指導は、集団や一斉指導ではなく個別指導なんですね。こういうアプローチのしかたもあるんだな、と思いました。

これからの漢字指導の可能性

棚橋 卯月先生の実践は時間もかなりかかると思うのですが、その分ほかの教科にける時間が減つたりしているのですか?

卯月 いいえ、減つていません。やり方の問題もあると思いますが、いくらでも工夫のしようがありますから。他教科でも漢字は漢字です。例えば、二年生の算数の時間に、国語で「算」は習つていても「数」は習つていな



すね。実は、わたしも小学校時代そのような子どもでした(笑)。

阿辻 現場では、漢字についてはあまりにも杓子定規に学年別漢字配当表にこだわらずに、という現実があるんですね。でも、子どもが自発的な行動によって習っていない漢字と出会つたら、教師も積極的にそれを認めてあげてほしいですね。「漢字はおもしろい」ということを伝えるのはたいへんだと思いますが、子どもたちの手足が縮こまらないような、もつとのびのびと感ぜられるような漢字指導をしてほしいと思います。

楽しく出会い、遊び、学んで定着させる漢字指導

漢字で遊び 漢字を学ぶ

— 漢字入門期の出会いから定着まで —

ノートルダム清心女子大学准教授 赤木 雅宣

1 はじめに

「漢字は結果として覚えることができる」という指導が蔓延していないだろうか。多少手間ひまがかかっても、漢字との出会いから定着までをていねいに扱い、子どもたちに「漢字（の学習）っておもしろい」と感じさせたいものである。子どもは主体性を大切にしながらさまざまな形態で漢字に触れさせ、実際に書かせていけば、プリントやドリル型の練習を繰り返さなくても、きちんと覚えさせることができるはずである。

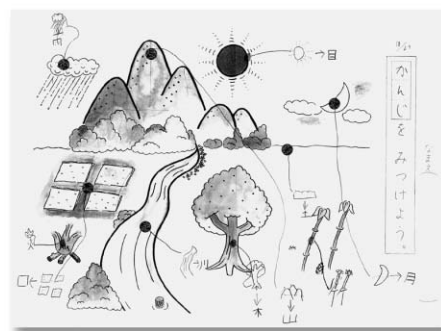
2 実践の趣旨

本実践は、漢字と楽しく出会い、漢字を使って楽しく遊び、書写の時間を活用して字形を確かめ、漢字字典作りを楽しむという一連の流れの中で漢字の定着を図るというものである。活動をさせるならば、楽しい活動を仕組みたい。また、与えられたことをこなすのではなく、できるだけ課題（問題）意識をもって主体的に活動させたい。さらに、意図的に間隔を空けて計画し、必然性のある繰り返し学習を構想したい。

3 指導の実際

（1）「かん字をさがせ！」— 漢字との楽しい出会い（九月）
【概略】二学期に入って、いくつかの漢字に出会い始めたところで、絵の中から漢字を見つける活動を仕組むことで、漢字に興味をもたせ、「漢字（の学習）っておもしろそう」と感じさせることができる。

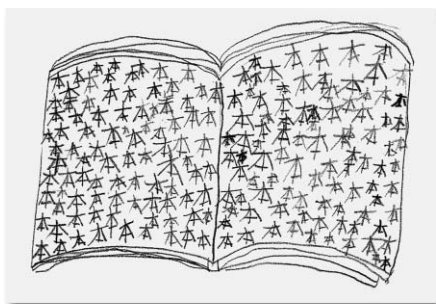
【指導のポイント】ポイントは、ワークシートの絵の中から漢字になりそうなところを探し出すことと、取り出した絵や図と実際の漢字を比べてどこがどう似ているのかを自分なりに説明することにある。一方的に、「こう変化していった」と知らされるのではなく、自分なりに想像することを通して、漢字（象形文字・指示文字）の成り立ちに興味をもたせる。



（2）「かん字みつけ」をつくらう— 漢字で遊ぶ（十一月）

【概略】絵の中にひとつだけ違う漢字を書き込んで「かん字みつけ」を作ったり、友達の間で「かん字みつけ」を探したりして、漢字ゲームを楽しむことがねらいである。

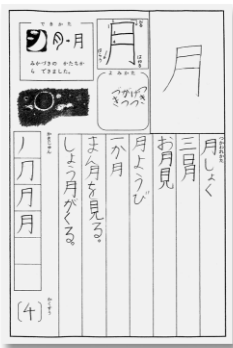
【指導のポイント】言うまでもなく、「みつけ」を作ろうと思ったり、同じ漢字を何度も繰り返し書く必然が生まれる。また、ひとつだけ異なる漢字を見つけようとする中で、元の漢字との違いをはっきりと認識することができる。どちらも子どもたちにとって楽しい活動である。



（4）「ふえるかん字じてんをつくらう」— まとめ（三月）

【概略】自分で漢字のまとめシートを作成していき、「ふえるかん字じてん」に仕上げるという学習である。まとめシートには、音読み・訓読み、筆順、画数、その漢字の用法（熟語・単文）などを書き込んでいく。

【指導のポイント】一枚のシートを書き上げるのに平均して十〜十五分程度かかる。それでも、時間をかけてこつこつと八十枚のシートを作り上げ、音訓順の目次を作り、表紙をつけて完成させると、どの子どもの表情も誇らしげで満足感にあふれている。本当の意味の定着というのは、こういうことではないかと考える。



4 考察

「楽しく出会い、漢字を使って遊び、字形を修正し、まとめる」という大きな流れの中で定着を図ることは、教師がその気になりさえすれば、それほど困難なことではない。すべての漢字においてすべてのステップを通るのではなく、軽重をつけられよい。時数を懸念する向きもあるが、集中して真剣に取り組む子どもたちの姿から、大きな意義のある時間であることがわかる。出会いのときにはていねいに取り組むが、あとは覚えたかどうかの確認（プリントや小テスト）中心になりがちが指導と比べると、出会いからまとめまでを長いスパンで構想し、一人ひとりの定着までの過程をていねいに見ていく指導の意義がいつそう鮮明になってこよう。

（光村図書「しよしゃーねん」P6・P17参照）

子どもたちが主体となって行う高学年の漢字学習活動

「漢字博士」で四つの力を身につける

新しい指導を考える会

1 はじめに

「漢字博士」は、一般的に行われている教師主導の漢字指導ではなく、子どもたちが主体となつて行う活動です。漢字を発表練習のツールとして利用したり、聞く素材として扱ったりすること、漢字を読んだり書いたりする力（漢字力）はもとより、情報を操作する力、プレゼンテーション力、聞く力の四つの力を身につけることができます。

2 漢字博士の実践

(1) 割当てと日程を決める

学年配当漢字の一覧表を作り、漢字を機械的に児童に割り振ると同時に、発表する日程も伝えます。誤答率が高いものを中心に行えば、漢字数も少なく、子どもの負担も軽減できます。力がついてくるのが実感できるようにするのは三巡目くらいからなので、無理なく継続できるようにすることが大切です。

(2) 情報を収集する

教科書や辞書、漢字ドリルなどの参考資料を使って、発表に必要な情報を収集する方法を伝えます。できれば、最初はいっしょにやってみる方がよいでしょう。

ここで、必要な情報として取り上げたものは、漢字、読み方（音・訓）、部首、画数、筆順、成り立ち、書くときの注意、熟語、教科書の用例などです。

(3) 発表資料を作る

集めた情報をもとに、発表資料を作ります。

初めのころは黒板に書くようにしていましたが、効率が悪い
ため、いつの間にか、子どもが資料を何枚かの紙に書いて持っ
てくるようになりました。そのうちに、模造紙全紙1/2の大
きさのものにまとめてくるようになりました。この活動は、発
表日程に合わせて、各自が家庭学習の中で行うようにします。

(4) 発表する、聞き取りながらまとめる

発表者は、調べてきたことを学級みんなの前で話します。その間、それ以外の子どもたちは、内容を聞き取りながら作業

(5) 評価する

発表でどんなところがよかったか、次はどんな工夫をすればよいかを確認し、評価します。このとき、子どもたち同士だけでなく、教師による評価も行うようにします。

また、聞き取った内容を書いた用紙を発表者に渡し、添削し評価の言葉を書き入れて戻すように指示します。曖昧に説明したことは曖昧に表記され、発音が悪かったものは誤記されているので、自分が発表したことが、友達にどのように受け止められたのがわかります。ここで、自己の振り返りがなされます。

しかし、この活動でなにより大切なのは、自分が調べたものを友達に聞き取って、書いてくれたという充実感です。このことが、お互いを高め合う原動力となるのです。

3
おわりに

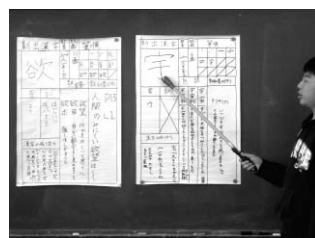
現在、二年間継続してこの活動に取り組んでいます。が、辞書がスムーズに使えるようになったり、要点をうまくまとめて話せるようになったりするなど、子どもたちが少しずつ変容しているのを感じます。

漢字を一つのツールとして扱う発想から、教材の開発を試みることで、今までの漢字指導には見られなかったさまざまな展開が期待できると思います。

[illegible]

【聞き取り用の作業用紙】

発表者が内容を確認したあと、教師に提出することになっている。



【発表する児童】

漢字を「文中で適切に使える力」の育成を目ざす

新しい指導を考える会

1 子どもたちの姿から見えてきた課題

現行の学習指導要領では、目標、内容及び言語活動例は二学年ずつにまとめられ、書きの指導については当該学年で漸次書くようにし、上の学年までに、文や文章の中で適切に使うことができるよう時間をかけて指導することになっている。

教科書では、「漢字の広場」として、学年に数回、前学年の漢字を学習できる小単元が設定されている。

四年生の「漢字の広場①」の学習では、最初、教科書に出てくる課題で子どもたちに文を作らせ、その後、二人組になって友達の間で文を評価するという展開で行った。

子どもたちの様子を見ていたところ、文意が通じないものや言葉の使われ方がおかしい文にも丸印をつけている子が非常に多くいた。子どもたちの意識は、提示されている言葉が「使われているかどうか」に集中しており、文の中で「どのように使われているか」、また、「どのように使えばいいか」という点にまで意識が向いていなかったのである。例えば、ある子どもが教科書で提示された三つの言葉を用いて作った、
『農家のやさしいは、畑でとれた物なので安売りです。』

という文について、正しいかどうか学級全体で話し合ったところ、ほとんどが、「正しい」という反応を示した。
これらの様子から、漢字の習得とともに言語事項全体にかかわる力を培うためには、漢字を文や文章の中で適切に使うことができ、文意にまで意識が向くように指導していかなくてはならないという思いが強くなった。

2 系統性を意識した学習の構想

先に述べた課題意識から、「漢字の広場」を小単元として細切れに指導するのではなく、年間を通しての系統性を意識した学習展開をすることが必要だと考え、学習指導書に掲載されている以外にも、年間を見通しての目標を独自に設定し、授業を構想していくことにした。
【資料1 (P14)】

3 評価の観点

教科書に提示されている言葉を用いて作った文を、子どもたち同士でお互いに評価するような学習場面を設定した。その際、

どのような観点で評価していくかを前回の学習を想起させながら話し合ったところ、子どもたちが挙げてくる観点にも変化が見られた。

「漢字の広場①」で児童が挙げた観点は、

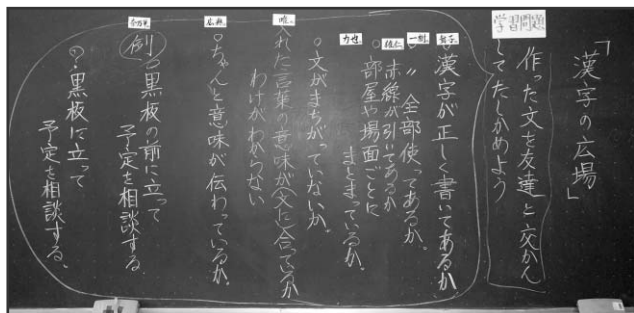
- ・(教科書に提示された) 言葉已全部使っているか。
- ・ていねいな字で正しく書いてあるか。

の二点だけであったが、「漢字の広場②」では、子どもたちから

- ・文に間違いはないか。
- ・わかりにくい文はないか。
- ・読んだ人に正しく通じるか。
- ・字は間違っていないか。
- ・言葉已全部使っているか。

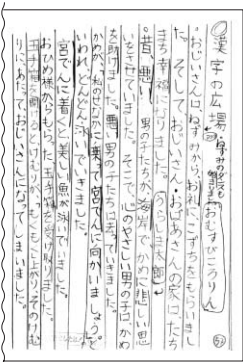
と五つの観点が出された。前回と比較すると、明らかに子どもたちが文に意識を向け始めたことがわかる。

さらに、「漢字の広場③」では、例を挙げて、文に適切に用いることを考えた方がよいという意見を出す子どももいた。これらの子どもたちの様子から、系統性をもたせた学習過程を経ることにより、漢字や言葉を文に適切に用いることや、作った文の文意や文脈に意識を向けることの大切さに気づくことができてきた。



4 「漢字の広場④」での実践

「漢字の広場④」は、教科書に提示された言葉を使って、『おむすびころりん』と『浦島太郎』の二つの昔話を構成していく課題である。現在の子どもたちにとって、昔話は馴染み深いものとはいえず、話のあらすじがわからないという子どもも多いため、話の筋を考えながら言葉を使って文章を作っていく活動には抵抗があると考えた。そこで、楽しむ中であらすじを確認しながら文作りに取り組み、さらに話のつながりも意識させることができるよう、「語り」(※1)の学習を取り入れた。
参観日に時間を設定し、まず、発表することを恥ずかしくない子ども二名と担任の三人組で、見本となる『桃太郎』の語りを提示した。次に、保護者にもグループに入って補助していただき、グループ単位で『おむすびころりん』と『浦島太郎』の語りをした。その後、各自で教科書に掲示された言葉を使って文を作り、二つの話を完成させた。



5 おわりに

漢字や言葉の習得の最終的な目標の一つに、いかに文中で適切に使えるかということがありと考える。それには、系統的・継続的な学習をいかに取り入れていくかが重要であり、今後も検討していきたい。

(※1)「語り」とは、「語り手が、自分が記憶する話を聞き手に語り聞かせる」(「ことばと心をひらく「語り」の授業」東洋館出版社)という意味でとらえている。ここでは、グループで自分が話したい部分まで話し、次の人へタッチする方法を用いた。



漢字学習との魅力ある出会いを

楽しくてもっと学習したくなる漢字指導の工夫

新しい指導を考える会

子どもたちが主体的に漢字を習得しようとする態度を育てるためには、漢字のおもしろさや不思議さにたくさん触れさせることで漢字の魅力を味わわせ、漢字学習の楽しさをたっぷりと体験させることが重要であると考えます。そのためには、子どもたちが必然性を感じられるような学習材の開発や指導の工夫・改善が必要である。

■四文字熟語漢字カルタゲーム

使用頻度の高い四文字熟語を数十個用意し、読み札と取り札を作る。読み札には、例えば、「一期一会」の場合、「①一期（いちご）と書き、取り札の表には「一会（いちえ）」裏には意味を書いておく。クラスのグループ分作って一斉にカルタ取りゲームをする。楽しく取り組める。普段よく耳にする四文字熟語の読み方や意味を知ることができる実践である。



【取り札】

【読み札】

■漢字のパートナー探し

漢字の一部分が記されたカードを組み合わせて、漢字を組み立てるゲームである。カードをクラスの数分用意しておき、子どもたち全員に一枚ずつ持たせる。合図があるまではカードは裏返しにしておく。「始め」の合図で、ひっくり返して自分の

■漢字一文字で表してみよう

帰りの会などで一日を振り返るとき、自分の気持ちを漢字一文字で書かせ、その理由を発表させる活動である。月ごとや学期ごとに時間を設けたり、年末に、「今年一年を漢字一文字で表現してみよう」というテーマで行ってもおもしろい。このとき、辞書を積極的に使うなどして自分の思いにぴったり合う漢字を吟味して選び出し、表現させることが重要である。言葉への関心が高まり、言語感覚を磨くことができる。

子どもたちが意欲的に漢字を習得しようとする態度を養うためには、子どもたちと漢字学習との「魅力ある出会いの場」を創意工夫し、子どもの内面に知的世界を豊かに作り上げることが重要である。また、反復学習とともに、日ごろから漢字を使わせる、辞書を引く習慣を身につけさせるなどの指導の充実も忘れてはならない。

【資料1】系統性を意識した「漢字の広場」の学習構想

単元		単元の目標・留意点
漢字の広場① 町やまわりの様子	目標	①提示された言葉をすべて使って絵を参考にしながら文章を書く。 ②提示された言葉が使われているかなど、作った文章を友達と確認し合う。
	留意点	・言葉を全部使おうという意識をもたせて文章作りに取り組ませる。 ・一つの文章に入れる言葉の数を制限せず、現在できる範囲で文章作りに取り組めるようにする。
漢字の広場② 人々が「していること」	目標	①前回の学習の課題を想起し、絵で示された場面の様子を考えながら提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②作った文章で言葉が適切に使われているか、友達と確認し合う。
	留意点	・一つの文章の中に複数の言葉を取り入れて文章を作るよう条件を加え、文章表現をふくらませていくことを体得させる。 ・言葉の終止形が変わっても、文章に合っているならよいということを知らせ、適切な言葉の変化について考えさせる。
漢字の広場③ 午後の学校の様子	目標	①前回の学習の課題を想起し、絵で示された場面を区切り、ひとまとまりの場面を意識しながら、提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②作った文章で言葉が適切に使われているかどうかを友達や全体で確認し合い、修正する。
	留意点	・一つの場面を伝えることを考えさせ、文章表現のまとまりに気をつけようとする意識をもたせる。
漢字の広場④ 昔話	目標	①物語のつながりを考えながら、提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②作った文章が筋に合っているか、発表し合う中で確認する。
	留意点	・一つの物語の筋を意識させ、作った文章のつながりが適切か、よりよい表現ができないかなどを意識できるようにしたい。
漢字の広場⑤ 休日の様子	目標	①これまでの学習の課題を想起し、どこで、どんな人が、どんなことをしているか、場面を考えながら提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②使った言葉が文脈の中で適切に使われているかどうか友達と確認し合う。
	留意点	・一つの文章の中で言葉が適切に用いられているか気づくことができるように、文章全体や文脈を見る意識をもたせる。
漢字の広場⑥ 学校や家での勉強	目標	①これまでの学習の課題を想起し、場面を考え、文脈に合っているかどうか考えながら、提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②使った言葉が文脈の中で適切に使われているかどうかを友達や全体で確認し合い、修正する。
	留意点	・場面や文脈を考え、適切な場所や意味で言葉が用いられているか気づくことができるように評価に困った点を出させる。

「教材研究」が授業の基盤

これだけはやっておきたい「教材研究」

元新宿区立西戸山小学校教諭 安田 恭子

授業公開で「モチモチの木」の授業をしたのですが、「豆太は見た」の場面で、ある児童から、「先生、はじめ豆太は『じさまぁっ。』って言っているけど、二度目は『じさまっ。』って言っていて、『ぁ』がありません。どうしてですか。」と聞かれて、返事ができなくて困ってしまいました。

よく「教材研究が大切だ。」という話を聞きますが、日々の仕事に追われて時間はないし、何から始めたらいいのかもわかりません。

毎日さまざまな仕事に追われ、先生方は本当に忙しい
ですね。

「なかなかじっくりと教材と向き合う時間も取れない。」と、悩んでいる先生も多いと思いますが、子どもたちのためにも、自分自身のためにも、やっぱり教材研究は必要です。今回紹介するところから、少しずつ始めてみませんか。きっと授業が変わりますよ。



豆太は見た

豆太は真夜中に、ひよと目をさました。頭の上で、くまのうなり声が聞こえたからだ。

「じさまあつ。」

「ま、豆太、心配すんな。じさまは、じさまは、ちよつとはらがいてえだけだ。」

まくら二で、くまみたいに体を丸めてうなっていたのは、じさまだった。

「じゃあまい。」

こわくてびつくらし、豆太はじさまにとびついた。けれど、じさまは、ころりとたたみに転げると、齒を食いしばつて、ますますすごくなるだけだ。

「医者様をよばなくつちや。」

豆太は、子犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふつとばして走りだした。

ねまきのまんま。はだしで。半道はんみちもあるふもとの村まで――。

(三下 P 68 ~ 70)

い

【まずは教材文を読みましよう】

- ・少なくとも全文を三回は読みましょう。特に物語文は、おおよその流れをつかむことが大切です。
- ・音読も忘れずにしましょう。全文を音読すると何分かかるか、「モチモチの木」なら、小見出しの場面ごとにとどのくらいかかるかを調べておきましょう。
- ・「視写」はたいへん有効です。「視写」をすることで、細かい描写にも気づきます。
- ・「自分が子どもなら、どこが心に残るか、どんな印象をもつか。」などを考えながら読みましょう。

ろ

【文章の特徴を整理しましょう】

・客観的な特徴をおさえましょう。
「文章構成」
小見出しごとの場面展開
「季節」
霜月(十一月)
「人物像」
じさま↓きもすけ・やさしい
豆太↓強がり・泣き虫
語句や漢字などの基本的な情報も
チェックしておきましょう。
・指導書を効果的に使いましょぅ。

は

【指導の計画を立てましょう】

・「どこの叙述で、「何を」、「どうやって」学ばせるかを考えます。上の教材文を例にとってみましょう。

①豆太が目を覚ました場面	②豆太の言葉	③じさまの言葉	④二度目の「じさま」	⑤豆太の言葉	⑥豆太の行動
倒置	豆太の心情（こわさ）	じさまの状況・くり返しの言葉	豆太の心情（②との違い）	豆太の決意	行動の叙述から読み取る 豆太の心情
サイドラインを引かせる	板書、ノートにも	音読（なりきって）	板書、前の言葉と比較	音読（なりきって）	教師は板書・児童は視聴写・ サイドライン・吹き出し

子ども・授業を思い浮かべる教材研究

京都女子大学教授 吉永 幸司

国語の授業のあり方を考えるとき、文章を読んで、「楽しい」とか「わかった」ということで完結させてよいなら、教材研究にそれほど力を注ぐ必要はない。しかし子どもたちに文章をより深く読み取らせ、確かな力をつけたいと考えるならば、授業前の教材研究が大切になってくる。

(1) 子どもを思い浮かべて教材を読む

まずは教室の子どもの思い浮かべて読むことから始めたい。このことはそれほど難しいことではない。「この文章を音読すると、どのくらいの時間がかかるのだろう。」「この言葉は普段使わないな。」「文章の山場ではどんな感想をもつのだろう。」「と、教材を読みながらつぶやくことが、子どもを思い浮かべることである。このつぶやきをそのままにしないで、時間を計りながら音読したり、難しそうな文章や語句に線を引いたり、文末の段落の意味などを考えたりしながら自問自答しているうちに、教室の風景が思い浮かぶ。「こで、どのような発問をしようか。」「この語句の指導をどのようにしようか。」「というような授業の具体的な流れが見えてくる。

(2) 教えたいことや習得させたい力を考える

国語の授業で大事にしたいのは、「先生とみんなで知恵を出

し合つて文章を読むと、一人で読んでいるときよりも良い考えが生まれる。」という実感をもたせることである。そのような授業をするには、大事にしたいことや子どもたちが考えてほしいことを学習内容として整理しておかなければならない。つまり、子どもたちにつけたい力を明確にしておく必要がある。教材研究ではこのことが難しい。しかし、手がかりになるものは教科書の中にある。単元の最初に示されている、「段落のつながりに気をつけて読もう。」「表現を味わい豊かに想像しよう。」というようなリード文である。これを目安に文章を読んでいくと授業の形や方向がはつきりしてくる。また、教材の最後にある「学習」ページ（手引き）や「たいせつ」の記述も有力な手がかりとなる。

(3) 授業に役立つ発問や板書・ワークシートを想定する

指導内容がはつきりした段階で、発問や板書・ワークシートを考える。とくに発問はいろいろな展開を予想し、複数以上考えるようにする。この場合も、「この発問に、どのくらいの子どもが手を挙げるだろう。」「このワークシートでみんながうまく考えをまとめられるだろうか。」「というような、実際の授業を想定して考える。このように、常に頭の中で子どもたちが活躍する姿を思い描きながら、教材を研究したい。

「教材研究」4つのメリット

- ① 軽重をつけたメリハリのある指導ができる
- ② 板書や発問、教具の使用など、事前に準備をしておける
- ③ 単元全体の見通しがつく
- ④ 児童をより深く見つめられる



1

教材文のすべてを同じように力を入れて指導しようとする、やたらに時間がかかったり、単調な指導のくり返しになったりします。場面ごとに軽重をつけることで、指導にもメリハリをつけることができます。

2

指導内容をはつきりさせておくことで、「この叙述は、板書をして、表現の違いがわかるようにしよう。」とか、「ここは時間が十分とれないから、あらかじめカードに叙述を書いておこう。」など、板書や教具の準備ができます。また、発問のタイミングや内容も事前に十分検討しておくことができます。

3

教材をくり返し読んでいると、自然に単元全体が把握できてきます。そうすると、常に単元全体を見通して指導計画が立てられるようになります。さらに、関連するほかの単元や教材などにも目を向けると、より指導が充実します。

4

教材研究で忘れてならないのが、クラスの児童一人ひとりを思い浮かべ、常に「あの子ならこう答えるだろう。」「この子ならこんな想像をするだろう。」と実際の授業を考えることです。また、配慮を要する子どもいますので、発問で傷つくこととはないかなど、児童をしつかり見つめたいものです。



しっかりと教材と向き合うことにより、自分自身にも自信が付き、安心して授業に臨むことができます。また、教師の自信のある指導は、児童一人ひとりに着実に学力をつける大きな原動力になります。さあ、しっかり「教材研究」をして、楽しく、自信をもって授業に臨みましょう。

3 本時の展開（第三時）

【目標】◎毛筆を使用して、漢字（万葉仮名）をくずして書き、平仮名の成り立ちを体験的に理解することで字形を意識する。

○漢字を表音文字の平仮名へと作り上げていった昔の人々の知恵と工夫を感じ、日本の言葉や文字への関心を深める。

【用意するもの】筆ペン、OHC（実物投影機）、くずし字の見本、台紙、補助線入り用紙、下書き用紙、作品用紙（数種類）、ワークシート（感想記入用）

	学習活動	教師の手立て・支援
とらえる	1 本時のねらいを知る。	漢字をくずして、平仮名にしてみよう。
	・漢字をくずすこと。 ・毛筆（筆ペン）を使用すること。	・前時までの学習を振り返り、漢字（万葉仮名）から平仮名になるまでの過程を、毛筆を使用して書くことを確かめる。
確かめる	2 平仮名の成り立ちを毛筆で書き、字形を確かめる。	・最初に演示して見せ、学習への意欲を喚起した上で、これからの活動の説明をする。 ・漢字から平仮名までの成立過程を段階的に書かせることで、字形を意識させるようにする。 ・取り組みやすいように、くずし字の見本と、補助線入りの用紙も準備する。
	・指導者の演示を見る。 ・漢字をくずして平仮名にする。	  書いた文字は台紙にはりつけていった。
広げる	3 くずした文字を使って看板などを書く。	・どんな言葉にするか考えてから書けるように、下書き用紙を準備する。 ・平仮名（万葉仮名）で書かれた看板などの画像をOHCで提示し、参考になるようにする。 ・便宜上、濁音などは、漢字の横に濁点をつけて表すようにする。 ・作品用紙は数種類用意し、自由に選べるようにする。 ・書き上がったら、作品として提出させ、廊下に掲示して他学級（学年）の児童にも見てもらえるようにする。
	・お店の名前 ・自分の名前（表札） ・お菓子の包み紙 など	
まとめる	4 本時を振り返り、学習のまとめをする。	・感想には、「平仮名を字源から書いて感じたこと」や「平仮名を発明した昔の人へひと言」などを書かせる。 ・何人かの児童に、作品と活動の感想を発表してもらう。
	・ワークシートに感想などを書く。 ・作品を発表する。	【児童の作品】   

【評価の観点】

十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
○漢字（万葉仮名）をくずして書き、平仮名の成り立ちを体験的に理解することで字形を意識している。 ○他者を意識して、意欲的に作品作りに取り組んでいる。 （観察・ワークシート・作品）	○漢字（万葉仮名）をくずして書き、平仮名の成り立ちを体験的に理解することができる。 （観察・ワークシート）	○くずして書くことができない。 ・補助線入りの用紙を活用したり、手を取っていっしょに書いたりする。 ○作品作りで言葉が考えられない。 ・どんな作品にしていくなのかいっしょに考えたり、文字を調べたりする。

連載 書写の時間を楽しく ⑥

平仮名の秘密を探ろう

―平仮名の由来を理解し、点画の筆使いに気をつけながら字形を整えて書く―（六年）

1 実践の趣旨

平仮名は、漢字に比べて簡便な文字であるためか、小学校低学年での指導時期を過ぎると、字形や点画の筆使いなどを特に意識することなく日常の中で使われている。そのため、学年が上がるにつれて字形に自己流の傾向が見られ、なかには何と書いてあるのか判別しかねる文字まで出現するなど、児童の平仮名に対する意識が低下していることが見て取れる。平仮名の指導は小学校の低学年ではほぼ終了するが、継続的な学習・指導の必要性を感じる。今回は、知的好奇心旺盛な小学校最高学年での平仮名学習の一つのあり方を提案したいと思う。

本単元では、国語科で学習した平仮名の成り立ち（六上P85「日本で使う文字」）について、さらに詳細な成立過程や、日本語としての特質に触れた学習を行う。また、毛筆を使用することで漢字を「くずす」行為が生じ、より速く、簡便に文字を書き表すための平仮名が生まれたことを、実際に毛筆を使用して漢字を「くずす」ことを体験させることで感覚的にとらえさせ、平仮名の字形を意識させる。具体的には、街の看板や包装紙に書かれた

平仮名（変体仮名）を提示し、その由来と字源に興味・関心をもたせ、普段自分が書いている平仮名の課題を字源から考えて修正できるようにしたい。そして、現在の平仮名の成立過程と歴史を知り、だれもが共通して読める文字を書くことを意識させたい。また、看板などの日常生活の中で今なお残る仮名（変体仮名）に触れたり、平仮名の由来について考えたりすることを通して、日本語の言葉や文字に対する興味・関心を深められるようにし、さらに中学校で行う「行書」学習にもつなげたい。

2 指導計画（全四時間）

第一時 万葉仮名を知る。

第二時 平仮名の由来を知る。

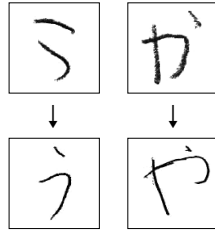
第三時 漢字をくずして書き、平仮名の字形を意識する。（本時）

第四時 筆使いに気をつけながら字形を整えて平仮名を書く。

3 本時の展開（次ページ参照）

4 後記

単元終了後、児童は、字源を意識し、字形を整えて平仮名を書くようになり、普段の書き文字にも変化が見られた。

う（宇） や（也）


- ・一画目の点の長さや方向を直した。
- ・二画目の始筆と曲がりの方向に気をつけた。
- ・一画目の曲がりの方向に気をつけた。
- ・点の位置が一画目の上に乗るようになった。

筆順は、そんなに大切なもの？

山梨大学教授 宮澤 正明

文字指導、書写指導で必ず行われるのが「筆順（書き順）」指導です。文字を字形として実現化するために、その文字を構成する点画をほぼ決められた順に従って書きますが、この順序を「筆順」と言います。筆順指導は新出漢字を学習する際に行うのが一般的ですが、それだと筆順の原則が系統的に理解しにくい

ため、筆順だけを取り立てて指導する場合があります。小学校における筆順の原則や基準は、昭和三十三年三月文部省から発行された「筆順指導の手びき」を拠り所としています。また、伝統的に書き継がれてきた、あるいは一般社会で通用している筆順を、常識を越えない範囲で加えることもあります。とはいえ、文字の学習段階にある小学校での筆順指導では、一文字に複数の筆順があっても正しいとする指導は学習者に混乱をきたすため、一文字一筆順として指導するのが一般的です。

書写における筆順と字形とのかかり

さて、新出漢字指導における筆順指導では、点画に数字をつけたり、色分けしたりするなど、さまざまな示し方で理解させ

る学生が、生い茂った葉の状態を左から右へ、そして幹、最後の地平線も左から右へと描き進めます。この実験結果から、これらの動植物の絵を描く順序は、左から右へ、上から下への順序となります。右を向く動物を描く学生もありますが、後から聞くと左利きである場合がほとんどです。

この結果を見る限り、筆順の大原則とほとんど一致しており、文字であれ絵であれ、右手で何かを書く（描く）場合、左から右へ、上から下へという流れが自然であることを示しています。そのことに学生は当然気がつくしますので、次のように述べます。

「筆順には原則があるからそれに従わなければならないと考え

るのではなく、元となる原理的なものが存在し、それが機能的・合理的な原則を生んできたのではないかと考えるべきであ

ろう。では、その原理的なものとはいったい何だろうか」と。すると学生は、「右手で書くからだ」と即答します。また、筆順と字形とが密接な関係にあることを理解してもらうために、次のような実験も行います。

実験③ 「右」「左」の一画目を、横画から書いてください。続

いて、両字とも一画目を左払いから書いてください。実験④ 「原」「成」を、いつも書いているように書いてください。続いて、一・二画目をいつも書いている順序とは

逆に書いてください。

実験③では、一画目を横画から書くと、横画が短く次の左払いが長めに書かれます。左払いから書くとその逆の現象が起こります。この結果から何がわかるかを学生に考えてもらおうと、「先に書く方が短くなる」という答えが返ってきます。

実験④では、それぞれの文字の一・二画目の接し方を比較し

るのが一般的ですが、書写における筆順指導では、単に点画を書く順番を示すだけでなく、筆順の原則をはじめ、筆順と字形とがどうかかわるのかを指導することになります。

まず、筆順の原則ですが、「筆順指導の手びき」から、原則とその文字例を抜粋してみます。

大原則1	上から下へ	三 工 喜
大原則2	左から右へ	川 竹 湖
原則1	横画がさき	十 共 用
原則2	横画があと	田 王 生
原則3	中がさき	小 業 楽
原則4	外側がさき	国 同 司
原則5	左払いがさき	文 人 金
原則6	つらぬく縦画は最後	中 車 平
原則7	つらぬく横画は最後	女 子 母
原則8	横画と左払い	右有 左友

大原則1・2は、筆順を知っている者からすれば当たり前のですが、この原則はどこから導き出されたのでしょうか。わたしは、それを大学生に理解してもらうために、次のような実験をしています。

実験① 自分の好きな四本足の動物（犬・猫など）を、横向きにしてシンプルに描いてください。

実験② 大きな木の幹と生い茂った葉、そして地平線をシンプルに描いてください。

実験①では、ほとんどの学生が、左に頭部、右に尾の順で描き、次に前足、後ろ足の順に描きます。実験②でも、ほとんど

ます。すると、先に書く画の始筆が外に出ていることに気づきます。始筆相互が接する場合、先に書く画の始筆が外に出るということが実感できるのです。

このように、筆順が、字形を整えるための要素である画の長短・接し方に影響を与えていることに学生は驚くのですが、ここで重要なのは、筆順が単に文字の点画を書く順序というだけでなく、それぞれの文字固有の整った字形を形成するための大きな鍵を握っているということなのです。

まとめとして

これまで、書写の学習指導の多くは、「（いわゆる）手本をひたすら真似て書くこと」を目ざして行われてきたように思いますが、この方法や手本の存在を否定するものではありませんが、ややもすると字形の完成度の高さのみが重視され、書写本来の目的である「文字を書く過程（書字過程）の習得」には意識が向きにくくなります。

書写力育成にあたっては、文字の外形・中心のように、字形を図形として視覚的に捉え、物の形の再現能力や図形認識力を育成する一側面があることを忘れてはなりません。それを踏まえながらも、点画を適切に書き進めながら字形を生成し実現化するといった書字過程を中心に据えた「書字運動能力」の育成が必要であると考えます。その一つとして、今回取り上げた「筆順」はもっとクローズアップされてしかなるべきであり、さらに今までの視点とは異なる取り上げ方が必要になるのではないのでしょうか。書写力を日常に生かすためにも、書写の学習指導方法は変身を遂げなければなりません。



帰り道の旅

こもり
小森
かおり
香折

家に帰る道が、うまく見つからないときがある。

わたしはもう四年生だから、道に迷うわけじゃない。交差点を渡って、二階に歯医者さんがあるビルを曲がって、スーパーに続く道をだらだらと下がっていけば、わたしの家。

だけどいつもの道を歩いて、あたりまえみたいに家に帰りたくない時があるのだ。そんな時、わたしは旅にでる。いつもとはちがう道を歩いて、コンビニに入ってお菓子の棚をながめたり、駅ビルでさらにさらしたものが並んでいるお店へいく。

べつに、ほしいものがあるからじゃない。ただそうして、かわいくて、にぎやかで、家にはないものをながめていると、すこしだけ気持ちがおさまるのだ。

それでもだめなときは、土手へでて夕陽を見る。空が苦しいほどきれいな色に染まって、おひさまが川むこうの街に沈んでいくのを見る。しつかりと、終わりまで見る。

「マオちゃんは家に帰るのがいやなの？」と、エリカちゃん言う。

「そういうわけじゃないけど」

先生に「栗原さんの通学路で、いちばん危険なところはどこ？」ってきかれたときも、わたしはうまく答えられなかった。「おはよう」おじさんの動かない目とか、ゴミをあさる大きなカラスとか思いだしていたから。

うまく言えそうにないから、わたしは「特にありません」って答えた。そうしたら、先生はひどく不機嫌になった。

「二丁目の交差点を通るじゃないの。あそこがいちばんあぶないでしょう！ それとも、栗原さんは空を飛んで帰るの？」

いいえ先生。わたしは空を飛んで帰りません。わたしの背中にあるのは、羽じゃなくてランドセルだから。

もちろん、わたしはそんなふうに答えない。みんなが笑うのにあわせて、照れくさそうに口もとをゆるめるだけ。ほんとうに言いたかった言葉はわたしの中にもつていく。雪みたいに。しんと。

ランドセルを背負った、飛べないわたし。鳥たちは、まっすぐにねぐらへ帰っていく。あの子たちはいいな。迷うことがなくて。

だれにも、わたしのころはわからない。いちばんきれいなのは、「あなたの考えていることはわかっているのよ」って思ってる、無神経なおとなたち。

わたしのことがわかっているのは、たぶんあの樹だけ。クリーニング屋さんの横できゅうくつそうにしている、いっぽんの桜の樹。わたしの樹。

わたしの樹は電線をさけて、身をよじるようにして枝をつきだしている。排気ガスのせいで、ひどく具合が悪そうだ。花が散ってしまったら、誰にも見むきもされない。

「なにか問題でもあるの？ 親が離婚しそうだとか」

問題。そう、なにか問題があれば、説明するのはかんたんだ。

エリカちゃんがさぐるようにわたしを見ているので、わたしはもったいぶって「うん、ちよつとね」と言ってみる。ため息をそえて

「ふうん。でもあぶないんだよ、寄り道すると。おかしなひとがたぐさんいるんだから」

だけど通学路を歩いていたって、おかしなひとはいる。火曜日と木曜日の朝に駐車場のわきですれちがうおじさん。通りすがりに「おはよう」って声をかけてくる。

あいさつされるだけなんだから、「おはようございます」って返事するのが礼儀なのかもしれない。でもわたしは、あまつたらい声で「おはよう」って声をかけてくるあのおじさんがきれい。こわいし、気持ちがいい。べつになにもされていないし、「おはよう」って言われるだけなんだけれど、あの「おはよう」がきれい。こすってもとれない泥をなすりつけられるみたいで。

でも自分の気持ちをひとに伝えるのって、むずかしい。とっても。



酒井 駒子／絵



樹はただ、そこにいるだけ。そして目ではないものでわたしを見て。「やあ、また旅をしたんだね」と樹は言う。「うん、旅はいい」。

樹の言葉がわたしのからだにしみる。いいにおいの風みたいな言葉。

秋になると、木の葉は大切なことを伝えるように落ちてくる。まだらに染まった葉っぱが頭のうえに落ちてきたとき、わたしは頭をなでられたみたいでどきりとした。

ホットケーキにかける琥珀色のメイプルシロップが楓の樹液だっ
て知ったとき、わたしは桜の樹にもあまい樹液が流れているにち
がいないって思った。濃いサクラソボみたいな味がする、ルビー色の
樹液。

わたしのなかに流れているのが、さびた鉄のにおいにする血な
んかじゃなくて、あまい紅色の樹液だったらよかったのに。相手を
うかがいながら言葉をえらぶかわりに、梢を風にゆらすだけで、
すべてを語れたらよかったのに。

ときどき、ここにふりつもった言葉が、からだからあふれそう
になる。

らんぼうで有名な、とがった顔をした男の子がいる。ヨシカワ
くん。わたしとエリカちゃんは、ランドセルを傘でたたかれたこと
がある。傘はべとべとと汚れていて、ランドセルにきたない痕を
残した。

ヨシカワくんは傘をふりまわして、わたしたちの頭もたたいた。

わたしはたたかれたことなんてなかったから、びっくりして泣く
こともできなかった。

「このことは秘密にしておこうね」って約束したのに、エリカ
ちゃんはすぐお母さんにしゃべった。だからエリカちゃんのお母さ
んがつぎの日に学校にやってきて、先生たちをすごい勢いでどなり
つけた。

廊下に立たされていたヨシカワくんは、ひどくちいさく見えた。
きつとヨシカワくんのからだにも、しめった雪みみたいな言葉がぐ
じゅぐじゅにつまっているんだらう。

わたしはきょうも、帰り道をさがす旅をする。その気になれ
ば、土手をどこまでも歩いて遠くへいってしまうことだってでき
る。そう気がついたとき、わたしはもうこどもじゃなくなったん
だと思う。

わたしの樹は、いつもの場所に立っている。夕陽をあび、幹は
ほんのりとぬくもっている。枝のすきまから見える空は迷路み
たいだ。

根っこをコンクリートで固められているから、わたしの樹は動け
ない。コンクリートがひび割れるほど根を起こして、樹はどこへ帰
ろうとしているんだらう？ いつか空を飛んで、まっすぐに、いつ
も満開の花を咲かせていられる場所をめざすんだらうか。

そのとき、きつと空は紫と紅色がかさなつて金色に輝いている
だらう。

わたしもいつしよに空を飛ぼう。いつの日か。わたしの樹と、しつ
かりと抱きあつて。

小森 香折（こもり かがり）
児童文学作家。東京都生まれ。ニコルの塔」で第5回ちや
うでん児童文学賞大賞、第22回新美南吉児童文学賞受賞。
近著『うしろの正面』さくら、ひかる。「読書」なんてネコ
がいるの』『びっくりたま』はか多数。

辛口コラム 一寸苦言

授業改善に立ち向かう ― どのような方法で実行していますか ― 一徹国語人

学習の進め方・授業づくりは、これから
どんどん難しくなっていくと考えられる。

それは、児童に身につけさせたい能力が
今まで以上に多角的になっていくこと、学
び手である児童の家族生活が少人数とな
り多様な体験をもちにくい日常生活に
なっていること、学校や家庭での学習方
法がかなりのスピードで変化してきている
ことなどに関係している。

これからの授業改善は教師個々の研究
工夫だけでなく、共同研究を積極的に取
り入れていく必要があると考えられる。

あちこちの学校や研究会を訪ねて授業
を参観させてもらうと、学習内容や方法
を児童たちが話し合いで決め、グループ学
習を軸に調査、話し合い、相互評価を含む
発表をする、といった進め方をしているの
によく出会う。

また、自分だけで学ぶ、友達と学ぶ、大
人たちから学ぶといった「学び相手」の広が
りや、教材そのものの分析、教材以外との

比較、教材を離れた資料中心のテーマ学習
など、学習対象物の広がりも見逃せない。

グループ構成においても、生活班グループ
を基本としながらも、発展して同一学習目
的のグループ、役割分担グループ、興味・関心
別グループなど、学習内容によって構成方
法や人数を変化させる学習スタイルも出
てきている。

こうした新しい学びの形式・方法をどの
ようにつくり出していったらいいのか、参考
になりそうな例を紹介する。

■共同研究者を募集

横浜市立神奈川小学校では、授業改善
をしようと考えている教科・単元が決まると、
他校の先生を含めて協力者を募り、共同で
研究を進める。

教材分析法、学習展開法、評価法などに
ついて、自校だけでなく参加した他校の先生方
からも積極的な意見が出されるため、幅広い
アイデアや批評を集めることが可能になる。

■研修会で全員が提案・批評

郡山市の夏の研修会では、65人の国語研
究会員全員が学年分科会に分かれて、自
分が実践した授業の内容と方法・成果を
プリントにして報告、提案をする。提案単
元は自由。工夫した内容と方法について話
し合う。

日ごろ、授業を適当にやっていたり記録
を正確に詳しくとれていないと実践をき
ちんと報告、提案することは難しい。65人
全員がそれができるということは、研究会
全体の意識の高さがうかがえよう。

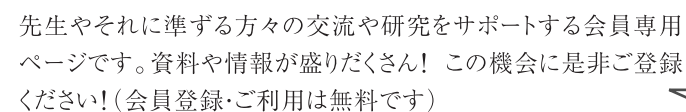
自分自身で研究し工夫することはもち
ろん不可欠だが、こういった例を見ていくと、
周囲の人たちと協力して、お互いに切磋琢
磨していくことの重要性を感じる。この点
に関しては教師も児童も同じ、だれと学ぶ
か・どこで学ぶか・どのように学ぶかも大切
であらう。



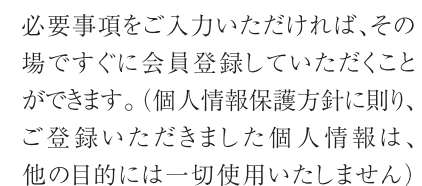
まずはトップページへアクセス!
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

文部科学省のホームページなどに直接リンクしています。新学習指導要領に関する情報ははじめとして、中央教育審議会や文化審議会に関する最新情報をチェックできます。

中央教育審議会の「審議のまとめ」の解説を各教科ごとに掲載しています。



「光村コミュニティ」にご登録いただいた会員のみ閲覧・ダウンロードしていただくことができます。全国からオリジナルティーにあふれた授業実践例が集まっています。明日の授業にすぐ使えるワークシートも多数収録しています。



教科書編集部便り

今回は、漢字や表記に関して、編集部によく寄せられるご質問と、それに対する回答をご紹介します。

① 四年上巻「伝言はまちがえずに」(P 50)の「きき返す」は、「聞き返す」とすべきではないか。

「きく」は、大きく次の二つに分けることができます。一つは、「友達の話を聞く」「医者言うことを聞く」のように、音声を耳を通して感じ取る場合です。もう一つは、「道をきく」「遅刻したわけをきく」のように、答えを求め口で問う、尋ねる場合です。この場合、かつては「訊問」の「訊」が使われました。しかし、「訊」は常用漢字表にない漢字なので、現在は「きく」と平仮名で表記されるのが普通です。「伝言はまちがえずに」の「きき返す」は、聞き取れなかったところや分からないことを相手に尋ねる、という意味なので、平仮名で表記しています。

② 「部首」と「偏旁冠脚」は、どう違うのか。

「部首」とは、元来中国古代の字書「説文解字」で始められ、「康熙字典」によって大成された漢字の分類・配列方法で、文字の成り立ちから意味を考え、字形を分析して得られる概念です。中国の古い時代に生まれたもので、旧字体から新字体になってもほとんどの要素がなくなった字も数多くあります。「声」「当」(それぞれ旧字体は「聲」「當」など)。辞典によっては、新字体による分類を優先し、以前とは違う部首に分類することもあります。いっぽう、

「偏旁冠脚」とは、純粹に漢字の構成部分に着目した概念です。漢字には会意文字・形声文字の割合が多く、必然的に字形はいくつかの部分に分けられるものが多くなります。このとき、配置上左にあるものを偏、右にあるものを旁、上にあるものを冠、下にあるものを脚といい、この代表的な四つをあわせ「偏旁冠脚」とよびます。一般には、「部首」と「偏旁冠脚」は混同されることも多いようですが、小社では本来の意味を尊重し、この二つを使い分けています。「部首」は前述のように辞書によっても違うため、四年上巻「漢字辞典の使い方」(P 32)でのみ扱っています。

③ 四年配当漢字「夫」の「フウ」という読みは、小学校では習わない読み方なのに、なぜ読み替え漢字として欄外に提出されているのか。(四上P 51)

「学校教育における外来語及び音訓の取扱いに関する調査研究協力者会議」の審議まとめ(平成三年)では、「フウ」という読みは中学校に割り振られています。いっぽうで、「工夫」という語は小学校段階でも教科書中に頻出し、また児童の使用頻度も高いものです。そのような実態を踏まえると、教科書でもこれを漢字で表記し、「フウ」という読みも押さえておくのが学習上適切ではないかとの判断から、このように提示しているものです。前述の「協力者会議」の審議まとめは、あくまでも目安を示したもので、例外としてこのような扱いも可能となります。ただし、小学校で学ぶ音訓「フ・おとと」を学習した後に、「フウ」を提出するよう配慮しています。

広報部便り

研究会のご案内

■第五十三回 全国国語教育研究大会

開催日 平成二十年二月一日(金) 十時～十六時四十分
二月二日(土) 九時～十二時十五分

会場 京都市立第三錦林小学校
京都市立向島南小学校
京都市総合教育センター

テーマ 実生活・実社会に生きる国語力の育成(1)
～読解力と記述力を重視して～

内容 基調提案／公開授業／研究協議会 (二月一日)
講演 (二月二日)

- ① 「実生活・実社会に生きる国語力の育成
—新学習指導要領の方向をうけて—」
文部科学省教科調査官・井上二郎先生
- ② 「動物に絵を習った」 絵本作家・あべ弘士先生

参加費 三三〇〇円

連絡先

京都市立向島南小学校内 全国国語教育研究大会本部
〒六二一・八一五四 京都市伏見区向島津田町九五・一
TEL 〇七五(六〇二)二八二四
FAX 〇七五(六〇二)二八二五
E-mail mukajimamianani-s@edu.city.kyoto.jp
http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/mukajimamianani-s/

編集後記

新学習指導要領の告示を前にして、これからの国語教育について、さまざまな議論がなされていますが、漢字の指導については、「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」(平成十九年十一月七日中央教育審議会)のなかでも、漢字の指導について「日常生活において確実に使えることを重視し、実際の文章や表記の中で繰り返し学習させるなど、児童の習得の実態に応じた指導を充実する」ことが求められています。

今回の特集では、座談会で漢字指導の魅力と可能性について語っていただき、実践提案で実際の授業の中での工夫を紹介させていただきました。日常の指導のご参考としていただければ幸いです。

また、弊社ホームページ「光村チャンネル」では、「審議のまとめ」について、「識者による解説」を掲載しています。ぜひご覧ください。

「意見・感想、取り上げてほしいテーマなどありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております！」

FAX 〇三(三四九三)五四八三
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村の提示型教材シリーズ

国語力
向上宣言!

漢字を学ぶ楽しさ、
伝えます。

「わくわく漢字伝」4つのポイント

1 みんなで画面を見る提示型漢字教材！

2 漢字への興味・関心を引き出します！

3 学習の定着を図ります！

4 すべての教科書に対応！

平成20年春発売！
HPより体験版お申し込み受付中

http://www.mitsumura-tosho.co.jp

小学校版 低学年用・中学年用・高学年用〈全教科書対応〉Windows®版
【学校フリーライセンス】 定価 各26,250円(本体 25,000円) ⑤



光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL:03-3493-5741(お客様窓口) FAX:03-3493-5483
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

絶賛発売中！

光村「国語デジタル教科書」小学校版
【学校フリーライセンス】各学年(1～6年)
各 52,500円(本体 50,000円) ⑤

「光村の本」好評発売中！

飛ぶ教室

大人の本の作家と子どもの本の作家が交流する。バトルする。新しい書き手が参加する。挑戦する。児童文学の冒険、ふたたび！

特集名		本体価格	定価	判型
2008冬 12号	河合雄雄と子どもの本(1月発売)	952	1,000	B5変
2007秋 11号	石井桃子と子どもの本の100年(最新刊)	952	1,000	B5変
2007夏 10号	動物園へ行こう	952	1,000	B5変
2007春 9号	創作特集	952	1,000	B5変
2007冬 8号	柴田元幸の「飛ぶ教室」的文学講座	952	1,000	B5変
2006秋 7号	ぼぼ まるごと一冊 長新太	952	1,000	B5変
2006夏 6号	ブーの森で語り明かそう	952	1,000	B5変
2006春 5号	創作特集	952	1,000	B5変
2006冬 4号	トーベ・ヤンソンのもうひとつの顔	952	1,000	B5変
2005秋 3号	神沢利子の世界	952	1,000	B5変
2005夏 2号	少女小説の知的なくらみ	952	1,000	B5変
2005春 1号	復刊特別号	952	1,000	B5変
年4回(1・4・7・10月)発売				

ベストエッセイ

日本文藝家協会編。人生の機微に触れる珠玉のエッセイ・アンソロジー！

書名		本体価格	定価	判型
ベスト・エッセイ 2007	老いたる私たち(最新刊)	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2006	意地悪な人	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2005	成り行きにまかせて	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2004	犬のため息	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2003	花祭りとバーミヤンの大仏	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2002	落葉の坂道	2,000	2,100	四六判

光村ライブラリー

教科書で習ったあのなつかしい作品が、今よみがえる。

書名		本体価格	定価	判型
光村ライブラリー中学校編	全5巻セット	5,000	5,250	菊判
光村ライブラリー中学校編	各巻	1,000	1,050	菊判
光村ライブラリー小学校編	全18巻セット	18,000	18,900	菊判
光村ライブラリー小学校編	各巻	1,000	1,050	菊判

名詩の世界

西郷竹彦著。著者自ら小学校・中学校・高等学校の現場で授業した経験が生きる。

書名		本体価格	定価	判型
西郷文芸学入門講座 第1巻 第3巻 第5巻 第6巻		2,095	2,200	A5判
西郷文芸学入門講座 第2巻 第4巻 第7巻		2,381	2,500	A5判

漢字ステージ100

小中一貫教育先駆的な教育特区品川区と国語の光村図書が共同開発。

書名		本体価格	定価	判型
漢字ステージ100	1・2年生	905	950	B5横
漢字ステージ100	3・4年生	905	950	B5横
漢字ステージ100	5・6・7年生(8・9年生)	905	950	B5横

ジュニアコロンブス21

小学生のための英語テキスト。英語を使ったコミュニケーションの楽しさを、子どもたちと一緒に実感してください。

書名		本体価格	定価	判型
JUNIOR COLUMBUS 21	児童用テキストBOOK1(3・4年用)	524	550	B5判
JUNIOR COLUMBUS 21	児童用テキストBOOK2(5・6年用)	524	550	B5判
JUNIOR COLUMBUS 21	指導書BOOK1(CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判
JUNIOR COLUMBUS 21	指導書BOOK2(CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判

新版中日交流標準日本語

中国人学習者のための総合日本語テキストの決定版！

書名		本体価格	定価	判型
新版中日交流 標準日本語	初級上下巻セット(分売不可)	4,000	4,200	B5判
新版中日交流 標準日本語	初級CD(6枚組み)	3,000	3,150	—
光村図書・人民教育出版社共同編集				

光村の好評ロングセラー。国語教育の至宝と画集。

書名		本体価格	定価	判型
近代国語教育論体系	全20巻	172,816	181,457	菊判
近代国語教育論体系	増補5巻	43,205	45,365	菊判
画集「野田弘志」		43,000	45,150	B4変

●全国の書店および、弊社HP(光村チャンネル<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> からオンラインショッピングをクリック)にてお求めいただけます。